

(左ページより)

インターネット上では、その言葉の影響力を深く考えず、自分がその時思ったことをすぐ思いのまま発言できてしまうので、もし後で誰かが傷ついたのでと後悔しても、掲載した言葉を取り消せないところが怖いところです。また、インターネット上では自分が発信した意見に同調する意見が出ると、例えば人を傷つける言葉であっても自分が正しい発信をしているかのように感じてしまい、悪いことをしているという意識が薄れるのかもしれませんが、一度書かれた言葉は訂正や撤回をしても、いろいろな形で残り、書かれた相手は目にすることもあり、心に深く刻まれてしまいます。直接的な言葉の暴力ではない分、インターネット上での書き込みによる言葉の暴力への加害意識は薄いかもしれませんが、発する言葉が届くという点では同じで、それを当事者が見ると悲しい気持ちにしかありません。例えば当事者がスポーツ選手なら、悔しい結果を自分なりに受け止め、その気持ちの切り替えを行いたいと思っているのに、知らないところで自分への誹謗中傷が行われているのを目にしてしまうと次へとつながっていく気持ちが下がってしまいます。インターネットは、世界中の様々な人となることができる大切なツールであるのに、時に、世界中からの誹謗中傷や攻撃を受けたり、つながることが辛くなる場合もあり難しい部分があります。

様々な人権問題が出てくる現在において、インターネットの発達は正しい情報と間違った情報が交差していて、真偽をしっかりと見極めていかなないと間違った情報を正しいと受け取り、それを刷り込まれてしまって、時には人を傷つける言葉と認識せずに発信してしまう恐れがあります。今回のオリンピックにおいては、その状況が顕著に表れていて、JOC（日本オリンピック委員会）も法的措置を検討するほど危機的な状況になっています。何よりも競技に対してひたむきに頑張っている選手を守るためにも早急な対応が必要です。

私たちは、4年間をかけてここに臨んでいる選手たちを国の代表として誇りに思い、声援を送りましょう。結果がどうであれ、国の代表としてそのプレッシャーと闘ってきた選手が帰国した時に、暖かく迎え入れるように、一人ひとりが選手に対する尊敬の気持ちを持つことが大事です。そのことが、インターネット上で広がりを見せて、応援の節度などの向上につながるような言葉が交わされるようになれば、選手たちにも自信や励みになると思うので、普段から周りの人や相手の気持ちに立った発信をすることが必要です。人は誰もがみんなとつながり合って助け合いながら生きています。何事も自分がこういう場面で、そういう立場だったらと、自分事として考えていければ今回のような悲しい問題も減っていくと思います。

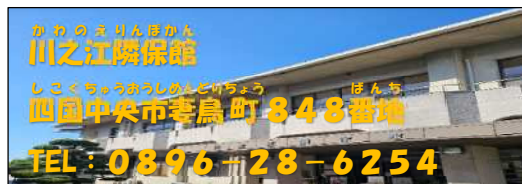
川之江隣保館 主事 西川直輝



The Best Paper City

感謝、そして未来へ

かわのえ隣保館だより



ねん がつはっこうごう

2024年9月発行号

ひ ぼ う ちゅうしょう しん けん

誹謗中傷と人権

先月まで行われたオリンピックでは日本人も活躍し、多くの人がテレビで応援されたかと思えます。ただ、その一方で期待されながらも、上手く結果が残せず、様々な思いを馳せている選手に対して、インターネット上での心無い言葉やひどい誹謗中傷が目立ちました。

もちろん応援する側も期待して、熱がこもるのも分かりますし、その半面満足いく結果ではない場合に残念に思うのも分かります。しかし、競技をしている選手はこの大会を目指しコンディションを整えてメンタル面でもモチベーションを維持しつつ最高の状態で臨もうと努力しています。誹謗中傷する側は、何気ない気持ちでインターネットに書き込んでいるかもしれませんが、メンタル面が落ちている選手にとってはやはりその言葉一つひとつが突き刺さります。選手たち誰もが負けたくないという気持ちで精一杯競技に臨んでいます。日本の代表としてのプレッシャーと闘いながら、最大限の力を発揮すべく努力しているのです。しかしながら大会の流れやコンディション等様々な要素があり、思うような結果が出ない時はあります。応援している選手が思うような結果が出なかった時に、ふと悔しい気持ちで、つい出てしまう言葉もありますが、それをインターネット上に上げると同調する人が表れてエスカレートし、誹謗中傷につながっています。それが「勝って当たり前」などと、テレビをはじめとするメディアで言われれば言われるほど、その選手が負けた時に、加速度的に誹謗中傷の傾向が強くなっているようです。言葉による暴力はその内容や受け止め方次第では命を奪いかねず、そういう事例も多く発生しています。結果が伴わなかった時に、選手たちが誹謗中傷されて謝罪する場面ほど辛いことはありません。ミスは誰でもするし、その結果を選手たちが一番心に刻んでいて次に生かそうとしているのに、誹謗中傷でたたいてしまうとそこから気持ちが上がらないばかりか、その後の競技生活において、結果次第で何か嫌なことを言われたりしないかと思ってしまうかもしれません。コンディションを整えるために体を調整していくこと以上に、大会へ臨むためのモチベーションを保つためにかかる様々なプレッシャーに勝つことが大変だと思うので、オリンピックなどの大会では自分の国の代表として出場する選手を応援する私たちは暖かく見守り、勝っても負けても賞賛とねぎらいの言葉で包んであげていくことが大切だと思います。

競技にかける思いが強く一生懸命に取り組んでいる選手たちに、ヤジや誹謗中傷の言葉を投げかける人たちは心から応援しようと思う気持ちが足りないし、自分が同じ立場ならどう思うかという人権の意識が欠けているように思います。

(右ページへ)

が

つ

9月

か

わ

の

え

り

ん

ぼ

か

ん

川之江隣保館

ぎ

ょう

じ

よ

て

い

行事予定

じょうきょう じょうきょう
状況により、予定が変更されることがあります。

日（にちようび）	月（げつようび）	火（かようび）	水（すいようび）	木（もくようび）	金（きんようび）	土（どようび）
1	2 ちよきんだいそう ・貯筋体操（ひまわり） けんこうだいそう やまねかい ・健康体操（山根会）	3 たいきよくけん ・太極拳	4 ちよきんだいそう ・貯筋体操（ｽｲｰﾋﾟｰ）	5	6	7
8	9 ちよきんだいそう ・貯筋体操（ひまわり） けんこうだいそう やまねかい ・健康体操（山根会）	10 たいきよくけん ・太極拳	11 ちよきんだいそう ・貯筋体操（ｽｲｰﾋﾟｰ）	12	13 りょうりきょうしつ ・ふれあい料理教室	14 休日開館日 たっきゅう ・卓球クラブ ・マインドフルネス瞑想会
15	16 敬老の日 けいろう ひ	17 たいきよくけん ・太極拳	18 ちよきんだいそう ・貯筋体操（ｽｲｰﾋﾟｰ）	19	20 きっさ ・ふれあい喫茶	21
22 秋分の日 しゅうぶん ひ しきじがっきゅう ・識字学級	23 振替休日 ふりかえきゅうじつ	24 たいきよくけん ・太極拳	25 ちよきんだいそう ・貯筋体操（ｽｲｰﾋﾟｰ）	26	27	28 休日開館日 たっきゅう ・卓球クラブ
29	30 ちよきんだいそう ・貯筋体操（ひまわり）					

し
【お知らせ】

か

わ

の

え

り

ょう

り

き

ょう

し

つ

だい

かい

第4回

が

つ

9月

に

ち

13日

き

ん

（金）

じ

10時～

き

っ

さ

第3回

が

つ

9月

か

き

ん

（金）

じ

9時30分～

なや
悩んでいることはありませんか？

りんぼかん
隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。

しよくば
「職場でのハラスメント」「職場や学校に行けない」など何でも相談してください。

しよくぎょうそうだん
また、ハローワークの職業相談は、電話による予約制となっています。

かわのえりんぼかん
川之江隣保館

28-6254

さいがい じんけん
災害と人権

が

つ

8月8日

に宮崎県で発生した震度6弱の地震発生後、南海トラフ地震の想定震源域では大規模地震が発生する可能性が普段と比べて高まっているとして臨時情報を出し、巨大地震への注意を呼びかけられておりました。（8月15日解除）

ことし げんじつ の と はんとう
今年の元日の能登半島での大地震以降、南海トラフの震源域での地震が続いております。私達は今後何年か先、あるいは近いうちに起こるかもしれない災害に備えて、準備を整えなければなりません。大地震や風水害が毎年のように起こる日本において教訓を生かした防災対策は進んでいますが、必要なことは、物資や救援体制・避難所の体制ばかりではありません。乳児から高齢者までの年齢、ジェンダーや障がいなどパーソナルデータの異なるひと ひ なんじょ ひと ひとりの人が避難所などで暮らすことへのストレス軽減、一人ひとりの人権を尊重できる避難生活の方法も検討し実践できるようにしなければなりません。災害時というただでさえ精神的にもバランスが取りづらい中では、お互いの配慮が出来ずに、ストレスに感じたり、施設の設定の面でも不都合なく暮らせる状況を作り出すことが困難なのです。

か こ しんさい
過去の震災においても高齢者、女性、障がい者への配慮に欠ける事例が多くあげられておりましたが、その教訓が能登半島地震では生かしきれず、同様の問題は発生しております。また、地震発生直後からインターネット上でも誤った情報が拡散したり、それによる混乱もありました。

さいがい じ ひと
災害時は、一人で行動するのは困難なことも多く、家族や近所の人同士で協力する場面も多いと思います。直接的な支援や助け合いが必要です。避難所で生活する場合には、家とは違い不便な部分もあると思いますが、生活する人それぞれがお互いの気持ちを尊重し、相手の困りごとをどう改善していけるかを一緒に考えたり少しずつ配慮をしていけば、心の不安は解消されるかもしれません。そのための気持ちの準備をしておくことも大事だと思います。